

東亞經濟研究

第 83 卷 第 1 号

令和 6 年 8 月

特集「吉川洋先生 山口大学経済学部教育講演会・研究会」

吉川洋先生教育講演会『日本経済の現状と課題』…………… (1)

吉川洋氏研究会

『マクロ経済学の再構築—ケインズとシュンペーター』 I …………… (31)

研究ノート

確率的マクロ均衡モデルにおける生産性の分布の導出過程 [I]

—経済物理学を用いたマクロ経済学研究—……………加 藤 真 也 (41)
鳴 海 孝 之

講演報告書

経済学におけるミクロとマクロ：

マクロ経済学と制度経済学のそれぞれの研究から……………寺 地 伸 二 (55)

吉川洋氏研究会

『マクロ経済学の再構築—ケインズとシュンペーター』 II …………… (61)

論 文

How “Manchuria” Emerged as a Toponym …………… MENG Jinzhao (83)
CHEN Jianping

山口大学東亜経済学会規則抜粋

- 第1条 本会を山口大学東亜経済学会と称する。
- 第2条 本会の事務所を山口大学東亜経済研究所内に置く。
- 第3条 本会は東アジア経済社会に関する研究を目的とする。
- 第4条 本会は前条の趣旨に賛同する下記の会員をもって組織する。
- 1 正会員 山口大学教員
 - 2 大学院生会員 山口大学経済学研究科、東アジア研究科社会動態講座（東アジア開発政策コース・東アジア企業経営コース）及び技術経営研究科財務・経営戦略講座大学院生（卒業生、東アジア研究科受入特別研究員（学術振興会のポスドク）、交流協定期間の交換留学生（6ヶ月以上滞在する博士課程学生）を含む）
 - 3 学生会員 山口大学経済学部学生並びに卒業生（山口高等商業学校、山口経済専門学校を含む）
 - 4 終身会員 本学を退職した正会員
 - 5 賛助会員 本会に寄附を行ったもの
- 第5条 本会は下記の事業を行う。
- 1 「東亜経済研究」、「東亜経済研究叢書」の編集刊行及び交換・寄贈
 - 2 その他の研究成果の刊行
 - 3 研究会の開催
 - 4 「East Asian Forum」の刊行、シンポジウム・講演会の開催など、東亜経済研究所活動への助成
 - 5 「山口大学経済学研究双書」の出版助成
- 第6条 本会の事業を行うため下記の役員及び機関を置く。
- 1 会長 経済学部長これにあたり会務を統括する。
 - 2 評議会 経済学部専任教員、大学院東アジア研究科社会動態講座専任教員及び大学院技術経営研究科財務・経営戦略講座専任教員をもって組織する。
 - 3 委員会 東研・図書委員会が兼務する。
- 第7条 役員の内任期は1ケ年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は前任者の在任期間とする。
- 第8条 本会の年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第9条 会員は下記の会費等を納入しなければならない。
- 1 正会員
入会金 1,500円 年会費 1,500円
 - 2 大学院生会員、学生会員
入会金 1,500円 年会費 800円
 - 3 終身会員 退職時2万円
 - 4 賛助会員 年1万円以上
- 第10条 会員は下記の権利を有する。
- 1 正会員
 - ①「東亜経済研究」及び「東亜経済研究叢書」への執筆と無償配布
 - ②その他の刊行物の無償配布
 - 2 大学院生会員
 - ①「東亜経済研究」への執筆（年1回）
 - ②「東亜経済研究」及び「東亜経済研究叢書」の無償配布
 - 3 学生会員
 - ①「東亜経済研究」及び「東亜経済研究叢書」の無償配布
 - 4 終身会員
 - ①「東亜経済研究」への執筆
 - ②「東亜経済研究」及び「東亜経済研究叢書」の無償配布
 - 5 賛助会員
 - ①「東亜経済研究」、「東亜経済研究叢書」及びその他の刊行物の無償配布

山口大学経済学部教育講演会・研究会

吉川 洋 先生

東京大学名誉教授, R5年度「文化功労者」, 日銀参与

2023年11月17日 (金)

・教育講演会「日本経済の現状と課題」 10:20~11:50

… 迎え受ける山大教授陣

… 前原ひとみ 講師

質問・発言 「政治経済学 (マルクス経済学) の立場から 実体経済と金融経済の
関連」(仮題) (15分程)

・研究会「マクロ経済学の再構築—ケインズとシュンペーター」

I) 14:30~

II) 16:10 (時間変更有り得る)

… I) 加藤真也 准教授 = コメンテーター

「解題: 吉川経済物理学」(仮題)

(15分程… 解りやすい解説とレベルアップのための質問)

… II) 寺地伸二 教授

提起 「ミクロ経済学とマクロ経済学のあり方」(仮題) (15分程),

吉川洋先生にも聴いて頂き, その後, 自由な話し合い。

場所: 山口大学経済学部 第2大講 (午前中), 第1会議室 (午後)

吉川洋先生は、近代経済学とりわけマクロ経済学の第一人者であり、現在も日経・経済図書賞の選考委員長をされており、社会保障国民会議 (内閣官房) 座長 (2008年)、財務省財政制度審議会会長 (2010年)、日本経済学会会長 (2012年) 等を歴任されている。(イェール大学でノーベル経済学賞受賞者のジェームズ・トービンに師事。植田和男日銀総裁と共同研究・共著論文あり)。

最近、大著を上梓された。

吉川洋 (2020) 『マクロ経済学の再構築—ケインズとシュンペーター』岩波書店。

連絡先: 山口大学東アジア研究科教授 浜島清史 sympo@yamaguchi-u.ac.jp

まえがき

一 吉川洋先生教育講演会と研究会および迎え受ける山大経済陣について

山口大学大学院東アジア研究科 教授 浜 島 清 史

HAMASHIMA Kiyoshi

本特集は2023年11月17日（金）に催された、吉川洋氏による山口大学経済学教育講演会ならびに同研究会ⅠⅡの講演録ならびに関連する報告資料・研究ノート等である。吉川洋先生に関する紹介は、教育講演内ですぐ有村貞則経済学部長がしているし、研究会Ⅰの冒頭でも吉川洋氏自らが当時の研究背景から浮かび上がらせて自己紹介をされている。そこで前置きはそこそこに早速、教育講演会に入っていこう。あとがきでは、本講演会に至った経緯、司会進行の企図、期待される成果などについて論じよう。

ただ一言、これは学部生にも本教育講演会前に司会進行（浜島）が授業で紹介してきたこと、経済学部への申請書に認したためてきたことである

が、ノーベル経済学賞を取るような現在の最先端の経済学では新古典派「マクロ経済学のミクロ的基礎付け」と言われる議論を中心に展開してきた。経済学を学ぶ者、経済学徒としてその一端に触れることは意義のあることであろう。本講演会は「日本経済の現状と課題」という極めて的を射たテーマと内容になっているが、その奥深いところで新古典派への批判的洞察も含まれていることに気づくかもしれないし、更に関心を持った学生の皆さんは「研究会ⅠⅡ」の講演・報告書・研究ノートまで進んでもらいたい。もちろん関連する参考文献も含めて。なおこの教育講演会は、山口大学経済学部同窓会、鳳陽会の助成を受けている。記して謝意を示す。

あとがき

— 解題にかえて

山口大学大学院東アジア研究科 教授 浜島清史

HAMASHIMA Kiyoshi

以上が2023年11月17日（金）、山口大学経済学部教育講演会 吉川洋先生「日本の経済の現状と課題」ならびに同研究会ⅠⅡ「マクロ経済学の再構築—ケインズとシュンペーターの講演録ならびに関連する研究ノート（加藤真也氏）ならびに講演報告書（寺地伸二氏）である（タイトルはそれぞれを参照のこと）。

解題に変えて、吉川洋先生の教育講演会・研究会に至った経緯と企画・企図、望まれる波及効果などについて述べておこう。元々、吉川洋先生をお呼びしようとした経緯は、山口大学時間学研究所で、2016年1月25日（2時）、経済物理学の創設者といわれる高安秀樹氏との合同講演会として企画したことに遡る。ご存じの通り、高安秀樹氏は、イェール大学で経済物理学をアベノミクスの創始者の一人浜田宏一氏と考案したといわれている。¹⁾²⁾

かかるテーマを選んだのは、当時、浜島が所属していた時間学研究所においては、文理融合、学際的な研究が行われており、物理学者も数名おられたから、ここで経済物理学による経済学と物理学の統合的な研究も、時間学研究所、ひいては山口大学総体にとって知的な創造的な刺激と波及効

果が見込まれると考えたからである。とはいえ、講演会当日、大雪に見舞われ、吉川洋先生の方が羽田空港まででストップしてお帰りにならざるを得なくなり、結局、高安秀樹氏のための講演会となった。とはいえ時間学研究所所員の先生方、また学外からもご参加・ご発言があり、こちらは盛況のうちに幕を閉じた。

それから数年が経過し、経済学部教育講演会の知らせが舞い込んできたので、渡りに船と再び吉川洋先生に依頼することにし、ご快諾を得た。高安氏との相乗効果は遠のいたものの、物理学や理系の先生方とのより学際的な議論は、当日の講演会でも相交えることができた。

しかも大著、吉川洋（2020）『マクロ経済学の再構築—ケインズとシュンペーター』岩波書店を上梓されたところであり、より期は熟した感があった。11月の講演会に先立って、10月末に令和5年度の「文化功労者」に吉川洋先生が日本国政府から選ばれたとニュース報道が飛び込み、花を添えた形となった。この年の「文化勲章」が岩井克人先生（東京大学大学院経済学研究科名誉教授）であるから³⁾、次期の文化勲章は吉川洋先生となるであろう。

1) この辺はウィキペディア等も参照している。

2) 吉川洋氏はアベノミクスやリフレ（リフレーション）派に対しては批判的と思われるが、吉川氏と浜田宏一氏には共著もある。浜田宏一・黒田昌裕・堀内昭義編（1987）『日本経済のマクロ分析』東京大学出版会、第2章、吉川洋「景気循環：各産業の生産調整」。

3) なお司会進行（浜島）は、学部生の時だったが、岩井克人先生と佐和隆光先生（後の佐賀大学学長）の合同講演会を企画・司会進行をしたことがあったことを懐かしく思い出す。その時のテーマは経済学方法論であった。当時、岩井克人先生は『ベニスの商人の資本論』筑摩書房（1985）、佐和隆光先生は『経済学とは何だろうか』岩波新書（1982）、などの著書を出されており、経済学方法論は格好の相性と思われた。学部生当時から講演会等で学識者から学知的な相乗効果・波及効果を期していたのだとおこう。

さて、司会進行（浜島）が、この企画を組んだのは、教育講演会においては、山口大学経済学部においては、まえがきでも言及したように、自分の担当科目の労働経済論や社会政策論を含めて、ノーベル経済学賞に連なるような新古典派経済学主流派の「マクロ経済学のミクロ的基礎付け」のような議論はほとんど紹介されていないようであったからであり、山大の経済学徒たちにもその一端を味わってもらうのは有意義であると考えたからである。自分の授業でも、近代経済学やマルクス経済学のエッセンスを語ることはあるが、到底、主流派の本格的な議論に太刀打ちできるべくもない。

司会進行（浜島）が、吉川洋先生の業績に驚嘆するところは、新古典派経済学主流派「マクロ経済学のミクロ的基礎付け」の議論、すなわち内生的成長理論、ルーカス（批判）、そこではOJTやランバイドゥーイング、などを駆使した、魅惑的な議論が展開されているが、それらを徹底的に批判していることである。マルクスは古典派経済学の徹底的な批判の上に独自の経済学を構築した。同様なことを吉川洋氏は、高度な数式を駆使するようになった新古典派の経済学の数式を丹念に追うことによって、その限界までも明らかにしようとしてきた（吉川2000）。さらに経済物理学にまで昇華させた（止揚といたい）（吉川2022）。（研究会Iの文献参照）

残念ながら、ポスト・ケインジアンや制度学派では（山大教授陣ではないが）、ポスト・ケインジアンや制度学派の先行研究も膨大に存在するた

めもあろう、新古典派主流派のかかる議論を吉川氏ほど真っ向から批判して、対置する議論を打ち立てられてはいないように見受けられる（かかる先行研究サーベイやその批判的検討は別稿を期したい）。

また吉川洋先生の議論も、今回の研究会でも表明されたように、今後の若い研究者に引き継いでもらうべき、検討されるべき残された課題も幾多あるであろう。今回の教育講演会・研究会I IIで挙げられた質問は、該当箇所をご覧頂くとして、他にも、以下のような諸点を思いつく。

既に研究会Iの配布資料の項で言及しているが、吉川（2022）で吉川他（2011）を通して、経済物理学の方向へ到達されたが、吉川（2000）で展開していたような、産業構造論・産業連関論への方向を極めることは、今後の方向性の可能性もありうるのではないか？吉川（2000）では、新古典派にないのは産業構造論的の把握であると喝破している。また吉川（2000）でみせたアーサー・ルイスの二重経済論モデルを発展させた3重経済モデルを展開されていた。この方向性も開発の可能性は残されているのではないか？⁴⁾

他にも幾つも語りたことはあるが、今回の吉川洋先生の教育講演会・研究会I IIが、（表紙の裏面）「向かい受ける山大教授陣」としてご報告・ご質問をして頂いた先生方はじめ、山大経済学の多くの先生方にご参加ご意見をして頂いた。これを契機に、山口大学経済学とご賛助頂いた鳳陽会とのさらなる学術的教育的発展に結実することを祈念する。⁵⁾

4) また、同一価値労働同一賃金においては、異業種における労働の質を比較するよう膨大な調査が試みてこれたが、これについてもうかがいたいところである。

5) 講演録は、浜島ゼミの、秋本幹太、石崎さくら、川上真治、赤松健汰、熊安連、井上花菜、各氏に掘り起こしてもらった。敢えて記すべきと思われる。もちろん最終的な文責は私浜島にある。講演録を聞き直すと、司会進行であたふたしていた時よりも、簡潔的確な表現はもとより、その内容の奥深さに感銘する。なお吉川洋先生には懇切丁寧に修正も施して頂いた。感謝感激である。

特集「新自由主義研究のフロンティア」

特集「新自由主義研究のフロンティア」に寄せて…………… 山本 勝也 (1)

論 文

新自由主義を定義する

— 『思考集団 (Thought Collective)』アプローチを巡って—
…………… 稲井 誠 (5)

翻 訳

ディーター・プレーヴェ, モリッツ・ノイエフスキー, ヴェルナー・クレーマー
『危険な思想を救出する：ヨーロッパ連合における緊縮ネットワーク』
…………… 稲井 誠 (23)

翻訳資料

スティーブン・ハーン『煙と鏡—新自由主義の歴史とは何か?』
フィリップ・ミロフスキー『新自由主義の死は大きな誇張』
クイン・スロボディアン『ハイエクの落とし子, 右派ポピュリストの新自由主義
的起源』…………… 山本 勝也 解説 (43)
…………… 稲井 誠 訳

特集「国際開発協力における理念と日本の役割」

特集「国際開発協力における理念と日本の役割」に寄せて
…………… 山本 勝也 (67)

論 文

デグローバリゼーション, 大国間競争, 折衷主義的な国際協力の時代
…………… 大岩 隆明 (69)

独立行政法人制度と政策金融改革

— 開発協力と政府開発援助 (ODA) の観点を踏まえて—
…………… 西山 慶司 (83)

アジア太平洋協力の萌芽—三木構想とその意義—…………… 八代 拓 (97)

論 文

Copyright Protection of Animation Characters …………… Yang Qin (117)
Sun Yunyi
Li Haifeng

令和6年8月31日

編 集 者 東亜経済研究編集委員会

発 行 所 山口大学東亜経済学会
山口市吉田 山口大学経済学部内

東 亜 経 済 研 究

第83巻 第1号 (通巻第240号)

印 刷 所 有 限 会 社 三 共 印 刷
宇部市大字妻崎開作1953-8

頒 布 略 記

- 大学・研究所・各調査機関等の同種機関誌との交換については発行所にご照会下さい。

THE
TÔA-KEIZAI KENKYÛ
(ASIAN ECONOMIC REVIEW)

Vol.83 No.1

Aug. 2024

**Special issue: Yamaguchi University Faculty of Economics
Educational Lecture and Research Seminar**

YOSHIKAWA, Hiroshi

Educational Lecture

The Current Situation of the Japanese Economy and the Challenges it Faces.

..... *YOSHIKAWA, Hiroshi*

Research Seminar

Restructuring of Macroeconomics: Keynes and Schumpeter I

..... *YOSHIKAWA, Hiroshi*

Note

Labor Productivity Distribution in Stochastic Macroequilibrium [I]

– An Econophysics Approach to Macroeconomic Analysis

..... *KATO, Shinya*

NARUMI, Takayuki

Lecture Report

Micro-Macro Problems in Economics: An Overview of My Studies

on Macroeconomics and Institutional Economics *TERAJI, Shinji*

Research Seminar

Restructuring of Macroeconomics: Keynes and Schumpeter II

..... *YOSHIKAWA, Hiroshi*

Article

How “Manchuria” Emerged as a Toponym *MENG, Jinzhao*

CHEN, Jianping

Published by

THE TOA-KEIZAI GAKKAI, YAMAGUCHI UNIVERSITY

Yamaguchi City, Japan